

製品名: NFKB1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81009**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	50kDa/105kDa

抗原情報

遺伝子名	NFKB1
別名	p50; KBF1; p105; EBP-1; MGC54151; NFKB-p50; NFkappaB; NF-kappaB; NFKB-p105; NF-kappa-B
遺伝子 ID	4790.0
SwissProt ID	P19838
免疫原	大腸菌で発現したヒト NFKB1 の精製された組み換え断片。

背景

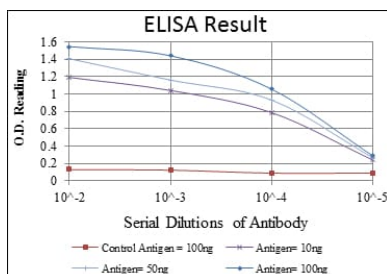
この遺伝子は 105 kD のタンパク質をコードしており、このタンパク質は 26S プロテアソームによる共翻訳プロセッシングを受けて 50

kDのタンパク質を生成します。105 kDのタンパク質はRel タンパク質特異的転写阻害因子であり、50 kDのタンパク質はNF- κ B (NFKB) タンパク質複合体のDNA結合サブユニットです。NFKBは、サイトカイン、酸化フリーラジカル、紫外線照射、細菌またはウイルス産物など、さまざまな細胞内外刺激によって活性化される転写制御因子です。活性化されたNFKBは核に移行し、さまざまな生物学的機能に参与する遺伝子の発現を刺激します。NFKBの不適切な活性化は多くの炎症性疾患と関連付けられており、NFKBの持続的な阻害は不適切な免疫細胞の発達や細胞増殖の遅延につながります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。

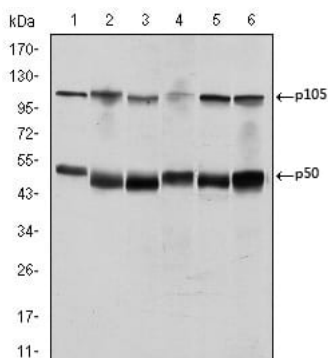
研究分野

アポトーシス、PI3K-Aktシグナル伝達経路、MAPKシグナル伝達経路

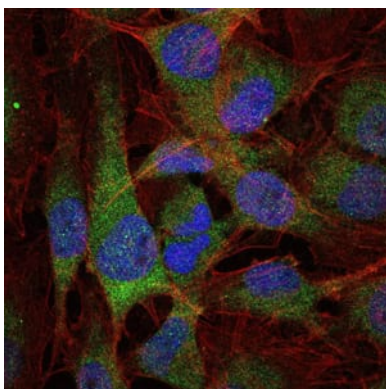
画像データ



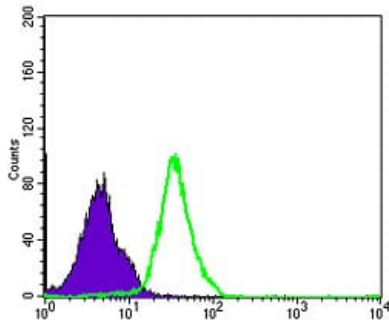
赤: コントロール抗原 (100 ng); 紫: 抗原 (10 ng); 緑: 抗原 (50 ng); 青: 抗原 (100 ng);



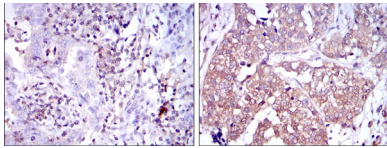
K562 (1)、Jurkat (2)、A431 (3)、HeLa (4)、THP-1 (5)、MCF-7 (6) 細胞溶解物に対するNFKB1 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



NFKB1 マウス mAb (緑) を用いた U251 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



NFKB1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (紫) を使用した MCF-7 細胞のフローサイトメトリー分析。



NFKB1 マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋ヒト内膜癌組織 (左) とヒト膀胱癌組織 (右) の免疫組織化学分析。